

2010.7.08 「保守の原点を問う 3 保守誕生 日本を陥没から救え」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

選挙期間中は、選挙に関する発言やホームページの更新が規制されていますので、そのようなことを外して皆さん方にお話をさせていただきます。

前回に引き続き、私の著作を紹介させていただきます。私の3冊目の著書は、「保守誕生」です。この本は、私と、京都大学の佐伯啓思先生、西部邁先生との鼎談と、各々が1章ずつ現在の日本の状況について書くという形で出版した本です。是非ご覧頂きたいと思います。

本のタイトルは、「保守誕生」ではなく、「保守再生」という言葉を使用すべきだったのかもしれませんが。しかし、日本の政治を振り返ってみて、本当の保守政治というものがあったのでしょうか。特に戦後の日本は、占領体制をそのまま引き継いだ形で自民党政治が始まっています。つまり、自民党政治の出発点すら、占領体制を保守するという性質があったのです。従って、本当の意味で自分達の国柄を保守するという保守の基本的な姿勢がありませんでした。その出発点から来る問題によって行き詰まっているのが、現在の状況であると認識をしています。この状況を乗り越えるためには、戦後体制そのものを振り返らなければなりません。それは保守再生ではなく、保守政治を誕生させていくのだという意味で「保守誕生」と名前が付けられたのです。

私達3人の問題意識は、戦後体制自体を総括して考えなければならないということです。特に私は、日本の戦後体制は、平成になってから特に変質したと認識しています。そのため、昭和の時代は、占領体制の延長線上になる自民党政治もそれなりに機能していましたが、平成になってからは機能なくなっています。その一番大きな原因は、昭和の時代には、昔から日本の近隣にはあっても、薄い存在だった中国が、平成になってから非常に大きな力を持ってきたことだと思います。アメリカとの日米安全保障体制だけで日本の防衛や外交を考えることができたという時代から、中国の驚異に対してどう備えるかを考えるべき時代になっているのです。また、アメリカとの同盟関係も大事ですが、自分達で自分達の国を守るという意識が必要です。中国がいくら大きくなっても、アメリカにとっては遠く離れた国です。しかし、日本にとっては呑み込まれかねない位置にあり、アメリカと日本とでは中国に対する立場が異なります。その違いを考えずに、同じ様な調子で中国と付き合い、冷戦後の仕組みをそのまま発展させたことから、様々な問題が出てきたのではないかと私は思っています。

私が申し上げていることも、日本の現在の状況が、戦後の占領体制から始まっているという国民の共通の認識がないと、なかなか国民の皆様方にご理解して頂けないかもしれませんが、一つずつ紐解き、国民の皆様方にお話ししていくことが重要なことだと思っております。

今は選挙戦の最中ですのであまり私の意見を言えませんが、選挙の期間中も政府の高官が問題発言を繰り返しており、選挙戦の総括を含めて、次の国会で議論する必要があると思っております。最も私が議論しなければならないと感じているのは、戦後社会そのものをもう一度総点検することです。

この問題については、またお話をさせて頂きたいと思っております。ありがとうございました。